

令和3年6月22日

令和2年度 建設常任委員会施策研究テーマ

「近年の河川災害から見た武庫川整備の現状について」

の提言に対する市の考え方について

土木局 道路部

建設常任委員会 施策研究テーマ
「近年の河川災害から見た武庫川整備の現状について」
の提言に対する市の考え方について

令和3年5月20日付けで送付を受けました「建設常任委員会施策研究テーマについて（報告）」におきましては、「近年の河川災害から見た武庫川整備の現状について」をテーマとして、建設常任委員会の皆様から、① 新規ダムについて、② 近隣住民への広報と事業の促進について、③ 地下河川について、④ 工事の優先順位について、⑤ JRより北の河床掘削工事について、⑥ 橋梁の橋脚について、のご提言をいただきました。

これらの提言に対し、様々な検討を進められるよう県に働きかけます。

尚、これまでの取組及び今後の取組方針も踏まえ、市の考え方について回答いたします。

① 新規ダムについて

（各委員の提言）

- ・次期整備計画策定時に検討
- ・住民の合意形成時に協力を行う
- ・これまでの総合治水工事が完了したのちは、ダム建設工事を積極的に検討
- ・ダムと合わせた堤防強化
- ・ダムの早期建設
- ・既存ダムの活用、遊水池の増設

【市の考え方】

現行の武庫川水系河川整備計画は、計画期間を20年間（令和12年度）とし、武庫川における昭和36年の戦後最大洪水を安全に流すことを目標に、河川対策、流域対策、減災対策を3本柱とする総合的な治水対策を進めております。

計画の中で新規ダム建設については、河川対策として具体的には盛り込まれておりませんが、「その必要性・実現可能性の検討を継続し、具体的な方向性が定まった場合には、計画上の取り扱いについて検討する。」とされています。

近年の災害の激甚化、頻発化の中で、各地で新たなダムの必要性についても議論されていますが、兵庫県は、現行の河川整備計画に記載された事業の着実な実施を進めとしております。

市としましては、次期河川整備計画の策定の際には、気候変動の要素も踏まえ、新規ダムを含む全ての治水対策を排除せず検討が進められるよう、取り組んでまいります。

② 近隣住民への広報と事業の促進について

(各委員の提言)

- ・ 武庫川整備における市民とのかかわり
- ・ 兵庫県と連携を図り治水対策事業を着実に進める
- ・ 自治会や住民に対する定期的な広報、説明
- ・ 氾濫監視強化や避難訓練等、減災を含む総合治水

【市の考え方】

県は、武庫川水系河川整備計画における下流部築堤区間の工事において、工事区間延長が長く、工事期間も長期となるため、工事状況について自治会への定期的なビラやホームページでお知らせするなどの広報に努めております。

また、武庫川沿いの住民を対象とした防災研修や出前講座など、洪水リスクに対する認識の向上に向け様々な取り組みを市の防災部局と連携して行っております。

市としましては、市民へ適切な情報を継続的に提供することが重要と認識しており、県と連携しながら工事の周知ビラやホームページなどを活用し、丁寧な情報発信に努めてまいります。

③ 地下河川について

(各委員の提言)

- ・ 武庫川下に水路兼道路をつくり水の逃げ道として活用

【市の考え方】

現行の武庫川水系河川整備計画において、地下河川は、計画されておりませんが、あらゆる選択肢を視野に入れながら、より効果の高い治水対策の検討を進めてまいります。

④ 工事の優先順位について

(各委員の提言)

- ・ 論理的な説明をもった優先順位

【市の考え方】

県は、武庫川水系河川整備計画に基づき、事業計画に定めた工事を順次進めており、適切な事業実施により、計画期間が、約3年程度の短縮が見込まれる状況にあります。

県は、事業の実施に当たり、近隣住民に対して丁寧な説明と対応を行っており、住民の合意を得た上で、工事を進めております。

市としましては、円滑に事業が進むよう、県と連携して丁寧な住民対応に努めてまいります。

⑤ JRより北の河床掘削工事について

(各委員の提言)

- ・堆積土砂の撤去要望

【市の考え方】

県は、堤防や護岸などの河川管理施設の状態や河道の変状などを把握するため、定期的な点検を実施しており、河道内の堆積土砂や樹木などが川の流れを著しく阻害している場合には、堆積土砂掘削工事や樹木の伐採などを実施し、河川の流下能力を確保しております。

武庫川の河床掘削工事は、令和元年度に甲武橋付近で7,400 m³、令和元年度および令和2年度に仁川合流点付近で4,400 m³の堆積土砂および樹木の撤去を行っており、令和3年度からはJR神戸線付近から北へ順次、堆積土砂の掘削を行っていく予定としております。

市としましては、今後も定期的な点検により土砂の堆積状況などを把握し、適切に掘削工事などが行われるよう、情報提供などに努めてまいります。

⑥ 橋梁の橋脚について

(各委員の提言)

- ・架け替え計画における県との連携

【市の考え方】

南武橋は、河床掘削工事により橋脚基礎の根入れが不足することから、新たに橋梁の架け替えが必要となったものであり、架け替えにあわせて、橋脚数を減らし、河積を増加させることで、河川の流下能力の向上が図られました。

現在事業中の区間(L=5km)で、南部橋以外の橋梁は、橋脚基礎保護の根固工を施工することで、新たな橋梁の架け替えは必要ありませんが、今後、橋梁の架け替えが必要となる際には、橋脚数を減らす検討を行うこととなります。

この度は、「近年の河川災害から見た武庫川整備の現状について」の貴重なご提言ありがとうございました。

いただいたご提言をもとに、今後の武庫川整備のさらなる促進につなげてまいります。

以 上